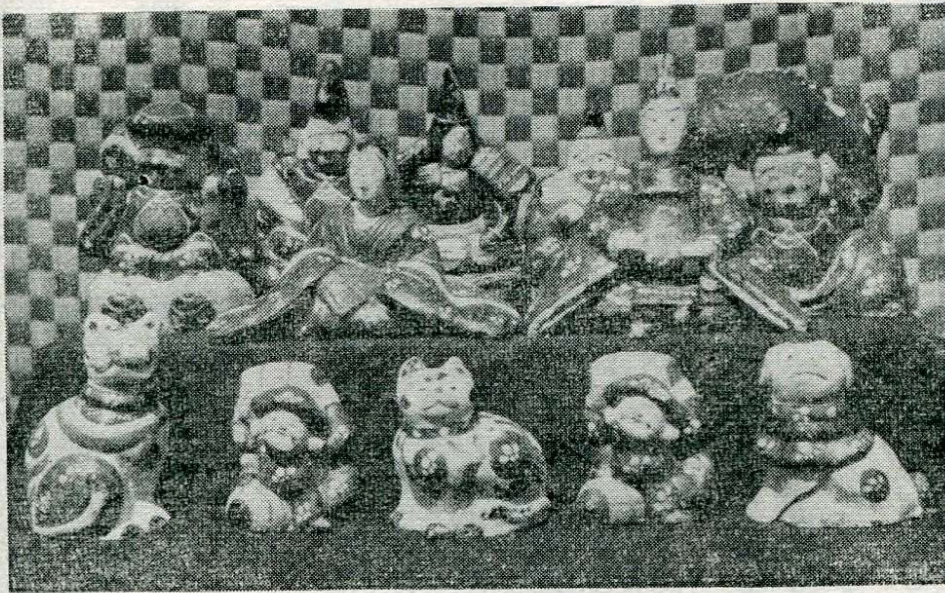


二、民 芸 品

(一)、附馬牛人形

俗称「ツキモシズンゾ」と呼ばれる。粘土に紙を混ぜてよく練つたもので型取り、赤、黄、藍、黒、白等の彩色を施し、素朴な中にも美しく気品のある人形で、内裏



附馬牛人形(小笠原父子作)

雛、五人囃子の外に、恵比寿、大黒、山の神、風神、雷神、神功皇后、竹内宿彌、熊谷直実平郭盛等の種類がある。花巻人形に類似し、高さは二〇〜二五纏位、製作技術の移入経路は不明であるが、嘉永から明治にかけて本村で作られたものである作者は小笠原元美

とその子宇吉の父子二代に亘っているが、宇吉の人形の方は顔面の胡粉の塗り方が粗雑で元美人形に比べて気品が乏しい(佐々木万吉氏談)と云われる。

現在はその技術を嗣いでいる人が無いが、一頃は登山や参詣に来た人々がお土産に買つて帰り、或は時々遠野町へも売りに出て、よく売れたと云われる。

(二)、木 彫

荒川部落の新田万左工門氏が、恵比須、大黒の像や、その他自然の奇木、銘木を利用した置物等を作っている

(三)、木の皮細工

マダ(楯)の木の皮で作るケラ(簍)やハシリ(荷綱)藤の皮で作るハバキ(脛当)、山ぶどうの皮で作るコダス(山仕事に行く時の背褰)、葛又はトズラゴ(ツヅラフジ)で編んだクチゴ(馬の口籠)、サワクルミの皮で作つた箕等は実用品であると同時に、民芸品として独特の持味を賞される。

(四)、藁 細 工

ケラ、ハバキ、ツマゴ(雪靴)スンベ(雪上靴)等がある。

(五)、そ の 他

曲物細工のヒツ等がある。